

一般社団法人 交野青年会議所 2017年度 理事長所信

第37代理事長 山本 崇正

はじめに

一般社団法人交野青年会議所は、日本の678番目の青年会議所として1981年に活動をスタートしました。以来36年間、我がまち交野市の、ひいては世界の「明るい豊かな社会」の実現のため、先輩諸兄は様々な困難に果敢に立ち向かってこられました。我々はその偉大な功績の最前線に立っているという誇りと自覚をもって、2017年という新たな37年目の歴史を切り拓いていかねばなりません。

我々の活動拠点である交野市は、緑豊かな生駒山麓に位置するまちでありながら、大阪・京都といった大都市圏へのアクセスが良く、都市近郊のまちとして76,000の人口を数えるに至りました。また第二京阪国道の開通は、ベッドタウンとして成長してきた交野市に新たな成長機会をもたらすことが期待されます。その一方で人口は近年減少傾向に転じ、住民の高齢化とそれに伴う社会保障費の増大といった様々な課題を内包しており、将来を楽観視できる状況ではありません。

そのような現状を前に、我々が担うべき役割、取り組むべき課題とは一体何でしょうか。私はそれを次の4つに集約しました。共に歩んでいく「仲間づくり」、運動発信の土台となる「組織力の強化」、地域を牽引するリーダーとしての「人財育成」、頼られる組織となるための「地域への浸透」です。大切なことは、我々の長所を伸ばし、短所を克服していくこと、「交野青年会議所」としての独自性(地域性)と普遍性を両立することです。

仲間づくり 「交野らしさ」つなぐ「Active Member 40」

青年会議所活動において、会員拡大は避けて通れない課題であり、それは交野青年会議所においても同様です。そして「働くまち」というより「暮らすまち」である交野市は、事業所数も少なく、大幅な会員拡大が困難であることも事実です。

現時点で30余名の交野青年会議所が、100名を超えるLOMを目指して会員拡大を行うのは現実的ではありません。しかし我々には、「交野らしさ」とでもいうべき、互いの顔が見える家族のような良さがあります。我々が目指すべき会員拡大のあり方は、数ではなく質。運動と思いに共感し、共に汗を流せる仲間を少しずつ広げていくこと。本年度は「Active Member 40」を目標に掲げ、メンバー一丸となって会員拡大に取り組んでまいります。

組織力の強化 経験の継承と広報力の確立

現在の交野青年会議所には、少人数ゆえにメンバー間の風通しが良く結束が強く、そして若く勢いのあるメンバーが多いという強みがあります。しかし一方で、青年会議所の運営に習熟したメンバーが少なく、また彼らが間もなく卒業を迎える過渡期にあることも事実です。この1年は、彼らの経験を継承し、組織の土台を固める最後のチャンスなのです。

一貫性のあるより良い運動の発信のためには、アイデアや実行力とともに、それを支える強靱な組織作りが不可欠です。青年会議所活動を運営していくための経験の継承と組織への浸透、そして我々の運動を外部へ発信していく広報力の強化に取り組んでまいります。

人財育成 個の成長とチーム力の向上

交野青年会議所を団体競技のチームと考えたとき、成長のためには大きく2つのアプローチがあります。一つはメンバー個人の能力を高めること、もう一つは個人の能力を生かすためのチームワークを高めることです。

チーム力の向上するためには、所属するメンバー個人の能力の向上が欠かせません。青年会議所活動を通じて様々な運動を展開するための土台となるからです。

我々が必要としているのは強烈な個性と魅力を持ったリーダー＝「人財」です。育成は簡単なことではありません。与えられるだけでは届かない「何か」に向かって、各自が試行錯誤を繰り返しながら、全力で足掻き続けること。これはまさに青年会議所活動そのものであり、様々な運動に全力で取り組み続けることが、「人財」の育成、個々の成長に直結します。

さらに言えば、ダイヤモンドはダイヤモンドでしか磨けません。自身の成長が仲間の成長を生み、仲間の成長が自信の成長を生むという信念をもって、自らの資質向上に取り組んでまいります。

そしてもう一つ、チーム力の向上のためには、個々が磨き上げた能力を遺憾なく発揮することのできる環境づくり、すなわちチームワークの向上が不可欠です。そしてメンバー相互の深い信頼関係こそがチームワークの源泉です。

信頼関係は順境よりも逆境の時にこそ深まるものですが、そのためには委員会、例会、事業への参加を通じての日々の交流とその積み重ねが大切です。活動を通じて、人と知り合う機会はLOMの内外を問わず数多く提供されますが、知り合った人たちと深い信頼関係を結べるか否かは、その後の各自の行動次第です。それは個人の生涯の財産となるとともに、交野青年会議所全体の組織力の強化、チームワークの向上に直結します。

またメンバー間のみならず、シニアクラブの先輩方や他LOMのメンバーまで含めた多くの仲間たちと信頼関係を築けるよう、積極的な取り組みを行ってまいります。

地域への浸透 伝統の継承と未来への発信

世界的な「明るい豊かな社会の実現」を目指すのが青年会議所ですが、我々が第一義に考え、運動を展開する活動拠点はこの交野市にあります。「Think Globally, Act Locally 地球規模で考え、地域に根差して活動する」という言葉の通り、青年会議所活動としての普遍性と、交野市という地域特性の両方のビジョンを持って、各種事業に取り組んでまいります。

まず我々が継続事業として取り組んでいるものに、「わんぱく相撲大会」「交野市民まつり」「35周年継続事業」の3つがあります。

「わんぱく相撲」は、世界に誇る国技としての相撲のすそ野を広げ、また子供たちに日本の文化、礼儀作法を伝える非常に重要な事業です。特にこの交野市は大相撲力士を数多く輩出しているという歴史もあり、この流れを今後引き継ぐ一助となれるよう取り組んでまいります。

「交野市民まつり」「35周年継続事業」はどちらも交野市民の方々に楽しみにしていただいている大きな祭であり、当青年会議所の活動を地域の方々に広く知っていただく絶好の機会でもあります。交野市という街の魅力の発信とともに、交野青年会議所を地域の方々により身近に感じていただけるよう取り組んでまいります。

また継続事業のほか、交野市が抱える様々な社会的な課題・問題の解決に資する事業を展開してまいります。柔軟な発想を持って、交野市という地域特性とともに、他地域でも応用可能な普遍性を持った運動の展開を目指します

むすびに

36年の歴史がある一方で、現在の交野青年会議所は会員数30余名、しかも入会3年未満のメンバーが大半を占める若い組織です。未だ発展途上の我々は、いったい何をよりどころとして運動を展開していけばいいのでしょうか。その答えは、我々が掲げる綱領の中に刻まれています。「青年としての、英知と、勇気と、情熱をもって」。不安の中で、志を同じくする仲間たちとともに、妥協せず、諦めず、まだ見ぬ「もう一歩先」の未来を描こうと懸命に足掻き続けること。大切なことは、何を成し得たかではなく、何を成そうとしたのか。失敗を恐れず、懸命に前に進もうとするその思いと姿こそが、今の我々が次代へつなぐことのできる唯一のバトンだと信じています。

最後になりましたが、これから1年間、一般社団法人交野青年会議所の第37代理事長としての職務に全力で取り組んでまいります。各関係諸団体の皆様、そして親愛なるシニアクラブの先輩諸兄におかれましては、より一層の御指導御鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2017年度 LOMスローガン

「もう一步先へ！」

2017年度 理事長方針

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 1. 仲間づくり | 「交野らしさ」つなぐ「Active Member40」 |
| 1. 組織力の強化 | 経験の継承と広報力の確立 |
| 1. 人財育成 | 個の成長とチーム力の向上 |
| 1. 地域への浸透 | 伝統の継承と未来への発信 |